

「愛知用水実地踏査要図」(1/50,000) : 1948 (昭和 23) 年 8 月 8・9 日

浜島辰雄作成のガリ版刷りのこの地図は、B4 サイズの用紙を 3 枚合わせてつくられている。1/50,000 地図と記しながら、等高線は 10m 単位になっており、標高は別の地図からの転記ではないだろうか。浜島は 1944 (昭和 19) 年の干ばつを経験したことで木曾川からの導水計画を構想しており、これはそのはじめのプランで、「ペーパーロケイティングだが楽しかった」と回想していたという。

1948 (昭和 23) 年 7 月 18 日の愛知用水開削構想の新聞記事を見た浜島は久野を訪ね、二人で現地踏査をおこなった。1957

(昭和 32) 年 7 月 4 日付の毎日新聞には、久野と浜島が初めて踏査を行ったのは 8 月 6 日とあるが、この地図には「昭和 23 年 8.8,9 久野庄太郎 浜島辰雄」と記されている。8 月 8 日・9 日の現地踏査でこの構想が確かなものとなったからだろうか。

この地図について、元愛知用水土地改良区職員・岡田昌治氏は次のように分析している。

- ・木曾川からの取水地点、東海道線以南については記されていないが、浜島の構想の概略は東海道線までは出来上がっていたと思われる。

- ・幹線水路は朱書きされており、幹線水路位置の標高は 10m 単位で記載されている。

- ・現尾張旭市・長久手市・日進市付近では、後の「愛知用水原図」や現愛知用水幹線水路に比べると大きく西側に計画されている（森林公園西側、日進市梅森町付近を通過）。

「愛知用水原図」作成までの間に詳細な検討がなされたことがわかる。

- ・入鹿池の上流（北東側）のルートを想定している。

- ・この地図の範囲（東海道線以北）でも 7 か所の「水不足地」の記載がある。

